

平成 2 9 年度
全国学力・学習状況調査
分析結果報告書

国 語

算 数
数 学

質問紙

児童生徒
学校

平成 2 9 年 1 2 月
千葉県総合教育センター

序

今年度の全国学力・学習状況調査も、多くの関係者の御尽力により無事実施されました。そして、8月下旬に文部科学省から各学校に調査結果が返却されたところで、本県でも県全体の調査結果の概要として、「教科に関する結果は、これまで同様、概ね全国平均と同程度」と発表しました。

平均正答率や平均正答数は当然のことながら気になる点ではありますが、結果を細かく見ると、さらに気になる部分がありました。それは学校質問紙調査の「平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか」という問いに対しての回答です。今年度も前年度に引き続き「よく行った」と回答した学校の割合が、全国と比べて、小学校は著しく低く、中学校は低いという状況だったからです。また、「活用している」と回答した学校も、どの程度活用しているのだろうか、有効に活用できているのだろうか、そんな疑問がふつふつと湧いてきました。

各学校では、これからの時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を、子供たちに身に付けさせようと毎日必死になって教育活動に取り組んでくださっています。中でも、「学力向上」に向けてはどの学校も、効果のある取組を工夫して行っていると思いますが、取り組みやすく効果が期待できる「全国学力・学習状況調査の分析結果の活用」が十分に進んでいない実態に対し、口惜しく思います。

そこで、千葉県教育委員会では、各学校で全国学力・学習状況調査の結果をさらに活用できるよう、特に次のような点に力を入れて取り組んでいます。

1 「分析ツール」の開発と改良

全国学力・学習状況調査の結果を各学校で容易に分析できるよい方法はないかと考え、平成26年度に本県独自に「分析ツール」を開発しました。その後毎年改良を重ね、今や文部科学省から届いた電子データを「分析ツール」に入れるだけで、「教科・質問紙分析シート」・「経年分析シート」・「誤答分析シート」・「クロス集計シート」が作成できるようになりました。学校現場からは「使いやすくなった」「ボタン1つクリックするだけで分析データができてしまうのは画期的である」という嬉しい声を聞いています。

2 「分析結果報告書」の改善

本県は、首都に間近な人口の密集する地域や、首都から離れた過疎化の進む地域など、地域により生活環境が異なっており、調査結果は地域ごとに特徴が見られます。従って、県下同一の指導ばかりでは効果は期待できません。地域の実態に合った最適な指導を行うことが望まれるため、今年度は新たに「地域別の傾向」のページを設けました。

また、各学校の課題を解決するためのヒントも毎年盛り込んできましたが、特に今年度は、出題された問題がどの学年で学習された内容なのか、全ての問題に付しました。これはとりもなおさず、調査対象学年担当の先生だけが教育活動の改善に取り組むのではなく、学校全体で取り組むべきであるということを、また、手軽に取り組むための「資料」となるよう示しました。

今後さらに各学校において、児童生徒の学力向上のために、全国学力・学習状況調査の結果が、学校全体で教育活動を改善するために活用されることを期待しています。

平成29年12月

千葉県総合教育センター所長 安藤 久彦